



今年の教区の目標
 求めよう、神のちむがなさを！
 守ろう、沖縄における人権を！
 探そう、真の平和への道を！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
 カトリック那覇教区本部
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2019年1月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第722号 (1月号)

HAPPY NEW YEAR!



那覇教区の兄弟姉妹の皆さん 2019年の新春の喜びを申し上げます



カトリック那覇教区長 ウェイン・F・バートン司教

去る二〇一八年の司教叙階式および祝賀会等に際してご尽力くださった押川司教様はじめ、司祭・助祭団、修道者の皆さん、信徒の皆さん、教区事務所の皆さんにあらためて厚くお礼申し上げます。また、旧年中に各小教区や修道会を公式訪問した際は、温かいまなざしで私を見守り、ささえ、受け入れてくださった事に心より感謝を申し上げます。

ところで同じ信仰に結ばれている私たちは、教会内のことについてよく話し合います。特に祈り、秘跡、ミサ、聖書などについては、説教や勉強会などで頻りに話題にのぼります。逆に、私たちの共同体にとって、もっとも難しい話し合いのテーマは、わたしたちを取り巻く社会の課題についてです。そのようなテーマについては様々な意見があるゆえに対立を招かないようにと、教会内ではできるだけ話題としない傾向があるのです。しかし、イエス様は私たちが弟子として社会のただ中に遣わされています。しかも現代社会の福音化に挑戦するために遣わされたのです。

福岡カトリック神学院の司祭養成綱要には次のように書いてあります。「日本の司教団は、『社会の中に存在するわたしたちの教会が、社会と共に歩み、人々と苦しみをかち合っていく共同体』となるよう」と呼びかけています。さらに「従来の宣教は、キリストを知らない人々に福音を告げて回心へと導き、洗礼を授け、信仰教育を施すこととされてきた。教会が近年教えている新しい福音宣教は、通常の司牧の領域にある信者をはじめ、洗礼を受けながらも教会から離れている信者、そして、イエス・キリストを知らない人々、また拒み続けている人々を対象としながら、人間の判断基準、価値観、文化、生活様式を福音化することも含まれている。教会は人々を洗礼に導くだけでなく、信仰をさらに深め、社会を変容させていく使命をもっているのである。キリストの福音こそ、一人ひとりの人間をその罪から、また社会をその構造的な悪から解放する原動力である」と明言しています。

こうした考えを踏まえて、私たちは那覇教区が置かれた沖縄の社会と共にあゆむために、二〇一九年の那覇教区目標を「求めよう、神のちむがなさを！ 守ろう、沖縄における人権を！ 探そう、真の平和への道を！」と定めます。社会の諸問題についてさまざまな考えがあるのは当然なことです。しかし、イエス様からのこの沖縄に遣わされている私たちは、福音の光の照らしによってこの社会が抱える諸問題の解決を考え、この社会の福音化に具体的に取り組むことが強く求められています。

聖パウロのローマの信徒への手紙に励みの言葉があります。「私たちは信仰によって義とされたのだから、私たちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ています。このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとしています。苦難が忍耐を生み、忍耐が品格を、品格が希望を生むことを知っているからです。この希望が失望に終わることはありません。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」(ローマ五・1-5)。

今年の教区の目標はいかがでしようか？この目標について深めあうため、那覇教区の皆さんのご協力を賜りたいと思います。新年度の司教公式訪問の際には、各教会でこの目標について皆さんと積極的に分かち合いたいと考えています。また、拡大司祭・助祭会議や信徒評議会でもこの目標について分かち合うつもりです。ですので、よろしくお願いいたします。

最後に二〇一九年を迎えて聖パウロの言葉をもって皆さんのために祈ります。「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ち溢れさせてくださるよう」(ローマ十五・13)。

皆さん、共に良い希望に満ちた年にしましょう。キリストと結ばれた信仰の喜びをもってこの新しい年を歩みはじめましょう。

* * * New Year's Message from the Bishop for 2019

Happy New Year to all my Brothers and Sisters of Naha Diocese!



First, my heartfelt thanks to Bishop Oshikawa, the priests and the deacons, the religious and the laity, as well as the staff at the Chancery Office, for all the hard work you did for my ordination and reception last year. It was an ordination and reception that I will never forget. Also, thanks to all of you at the different parishes and religious institutions that I visited during 2018 for your warm welcome and words of support. I was deeply touched by your kindness. Thank you!

At the beginning of the new year, I want to reflect with you on our common ministry of evangelization. At our various parishes we are very comfortable discussing together, or hearing sermons about, issues that are part of our parish life: Mass, the sacraments, prayer and the scriptures. However, we sometimes find it difficult as a community to discuss various social issues that affect Okinawan society. We tend to avoid talking about social issues that could cause divisions in our community. It is important, however, to remember that Jesus has commissioned us as his disciples to live our Christian life in society. In other words, Christ has given us the challenge to evangelize the Okinawan society in which we live.

In a document used by the Fukuoka Catholic Seminary, "The Basic Elements of Formation for Priesthood," the following is written. "The Japanese Bishops' Conference expressed their hope that, 'Our Church which exists amidst society, must walk together with society, by becoming a community which shares in the sufferings of the people.' The document goes on to state that,

'Traditionally evangelization has consisted of proclaiming the Gospel to those who do not know Christ, leading them to conversion, conferring Baptism, and offering faith education. However, in recent years the Church has undertaken a new way of doing Gospel evangelization, by firstly including Catholics who are within the traditional area of pastoral concern, but also extending out to include Catholics who have been baptized but have left the church, and people who do not know Jesus Christ. And while targeting those who continue to refuse the Gospel, the new evangelization also includes efforts at the Gospel transformation of humanity's criteria of judgment, its values, its various cultures and its differing lifestyles. The Church has the mission, not only of guiding people to Baptism, but also of deepening the faith and transforming society. The Gospel of Christ itself is the driving force that not only liberates every person from sin but also the driving force that liberates society from structural evils.'

With all this in mind, and in order to be active participants in Okinawan society, I have decided that the aims for Naha Diocese for this year will be: "Let us seek the compassionate love of God, protect human rights in Okinawa and search for a true path to peace!" It is natural that when it comes to various societal issues, there are many different opinions. However, since Jesus has sent us to minister in Okinawan society, he requires that we think about and search for solutions to the various societal problems using the light of the Gospel as our guide. In this way, we can fulfill our mission of finding concrete ways to undertake the evangelization of the society in which we live.

St. Paul in his letter to the Romans has some words of encouragement. "Therefore, since we have been justified by faith, we have peace with God through our Lord Jesus Christ, through whom we have gained access by faith to this grace in which we stand, and we boast in hope of the glory of God. Not only that, but we even boast of our afflictions, knowing that affliction produces endurance, and endurance, proven character, and proven character, hope, and hope does not disappoint, because the love of God has been poured out into our hearts through the Holy Spirit that has been given to us." (Romans 5:1-5)

What do you think about the aims of the diocese for this year? In order to deepen our mutual understanding of these aims, I will need your cooperation. When I visit around to the parishes this year, I would like to have active discussions with you about the issues raised by these aims. I also plan to discuss these aims at the Priests and Deacons meeting, and at the Diocesan Lay Council meetings.

Lastly, as we welcome the year 2019, I will end my message with a prayer for you using the words of St. Paul. "May the God of hope fill you with all joy and peace in believing, so that you may abound in hope by the power of the Holy Spirit." (Romans 15:13).

I pray that all of you will have a good new year abounding in hope. With the joy of faith, that we gain from being deeply joined to Christ and to each other, let us take our first steps into the new year!

By: Bp. Wayne F Berndt O.F.M.Cap.





ミサのお恵み

ピーター・チャネル・チェ神父
具志川教会 主任司祭

ことです。私たちは毎日家でごはんを食べないと生きていかれませんが、同じように私たちは心の糧となる霊的なごはんをいただかないと、心の健康を保つことはできません。その霊的な食事を与えて下さるのがミサなのです。食事の前半は、み言葉の言葉の朗読と司祭の説教を通して行われます。私たちは聖書の言葉に耳を傾け、み言葉のごちそうをゆつくりと味わう



段の食事でも、その前に手洗いをすると、シャワーを浴びたりします。同じようにミサに与るには、悔い改めや回心、お祈りなどが必要です。またミサへの参加は、ただお客さんとして食事にするだけではなく、イエス様と一緒に準備をすることも含まれています。たとえば自分の一週間の生活の奉納や共同の祈願などです。

ただくときは、イエス様に触れるだけではなく、もつと深くイエス様と霊的に交わることが大切です。聖堂にはいつもイエス様が待っておられます。主日には、イエス様が私たちと一緒にミサを捧げられます。そしてミサは、イエス様と私たちとの呼応(呼びかけと応え)という対話形式で進められていきます。だからミサの中では、み言葉や聖歌に耳を傾け、十字架像や司式者のふるまいに目を凝らし、救いの出来事やお恵みに思いを巡らし、ご聖体をいただき味わうことによって、イエス様に直接触れることができます。触れることは信仰の行いです。ですからイエス様はご自分に触れた病気の女性に、こう言われました。「あなたの信仰があなたを救った」。

ここにしているのを見てとても感動しました。さつそく友達はそのころに来て聞きました。『ピーター、どうして、ミサの後、信者たちはみんな、あんなに笑顔できれいなのですか?』私はこう答えました。『ミサの中で、神様が信者たち一人一人の心を変わらせてくださったからです。だから、みんな、きれいな顔になったのですよ。』友達は納得したようで、カトリック教会のミサがとても素晴らしいと感じて、心が洗われたような気持ちになって、教会を後にしました。

明けておめでとうございませう。今年も皆さんの上に、たくさんのお恵みがありますように、お祈り申し上げます。ところで私たちはすでに、素晴らしいお恵みが与えられています。それはイエス様が制定してくださったミサです。その中心にある三つのお恵みについて、理解を深めたいと思います。

一つ目は養い(心の糧・霊的ごはん)のお恵みです。

ミサに与る目的は、最後の晚餐の弟子たちと同じように、イエス様から招待され、食卓を囲んでイエス様と一緒にごはんをいただく

ことによって、心の糧となる霊的ごはんをいただきます。食事の後半は、ご聖体の食卓の上で準備され、奉納と奉獻を通して行われます。そして聖変化によってご聖体となったパンを私たちはいただきます。心に元気を与えて下さるこれ以上のごちそうは他にありません。

福音書には、イエス様によって多くの病人が癒されたことが書かれています。その中には、信仰によってイエス様と出会い、イエス様に触れ、すべてをイエス様に委ねることのできた人が、癒されています。

皆さんもミサに与る間、もつとイエス様と親しく出会い、対話をし、イエス様に心から触れるよう心がけてください。そしてご聖体をい

以上のように、ごミサは素晴らしいお恵みでいっぱいです。今年はお互いにもつとミサを大切にし、お恵みに与り、良い一年になるようにいたしましょう。

♪み手の中で

すべては変わる賛美に
わが行く道を導き給え
あなたのみ手の中で♪

五年前に三十八年務めた看護職を卒業しました。いつも白衣のポケットに忍ばせていた院内用口ザリも無事役割を終えました。

出会った患者さんやご家族との関わりは、私にとって生きていくために肥しとなりました。

そして、振り返ってみると、私の職業人生も「御手の中で」その時々で導かれていたと思わずにいられません。

若い頃、終末期の患者さんとの関わりは苦痛で、病室に入るにも、ドアの前で深呼吸して入り、また患者さんからの「問い」を怖がり検温や血圧測定等の必要な情報だけを得て退室するよくな未熟な看護師でした。目を空けず何人か看取りの看護が続くと、エネルギーを吸い取られているような虚脱感が襲い、「なんで、私の勤務の時だけに多いのだろう」と落ち込むこともありました。

その後、教会と関わるようになり、平成元年に洗礼の恵みを授かりました。夜勤もある看護

の仕事と家事の両立は厳しく、子育て中は無我夢中で日々の生活に追われる日々でした。独身の時とは違い、担ぐ荷物も増え「重い、重い、何とか軽くならないか」と日々奮闘するなかで自分自身が「御手の中に」抱かれていたことなど忘れていました。そんな時、不思議な経験をしました。

夜勤の時、寝たきりの状態であるが意思疎通はしっかりでき

看護師にとって、看取りの看護は尊く大切なものです。教会に家族で通うようになった看護職人生の後半は終末期の患者さんにも前向きに関わるようになりました。特に病告告知後の患者さんには積極的に関わりました。命の灯が消えるまでにしたいこと、やり残したこと、相談、患者さんによっては、具体的な葬儀の相談等もありました。

一日に三人の方を主の身元に

たて軸よこ軸
御手の中で生かされて

宮古島平良教会 佐久川 和子

る患者さんがいて、夜間はいつも、長男さんが泊りがけの看病する温かい家族でした。夜勤の巡視の時、睡眠中と思っていた患者さんが、懐中電灯の明かりの中で優しくほほ笑みながら「くろろさま」と小さな声を掛けてきた時、なぜか私はマリアさまの姿を見たような気がしました。なぜそう思ったのか今年過ぎた今でも鮮明に思い出します。

送り返すこともありましたが、そんな時でも、私は御手に守られていると感じられることで「その時」を迎えても、白衣のロザリオを握り「主よ、準備ができました。彼を引き継ぎますね」と祈ることができ、そして習慣になりました。若い頃と違い、逝く人を送り出した後の安堵感、きつと、私の荷物を担いでくれた御手の存在があったと思っています。

那覇教区平和委員会

日時：1月27日(日) 午後2時～4時
場所：カトリック安里教会
講師：又吉 盛清 客員教授
演題：沖縄から発信するメッセージ

1月例会

「これからの東アジアを平和的に生きる道」

カトリック那覇教区平和委員会 問い合わせ ☎090-1949-6569 (福岡)

地です。いつか、一一九番に電話してきたような未信者の方が覗いた時、「御手の中に」いることを感じられる教会づくりのための奉仕をしたいと思うこの頃です。

♪御手の中で
すべては変わる感謝に
わが行く道に表したまえ
あなたのみ手のわざを♪

2018年12月 司祭・助祭拡大会議議事録

開催日時: 2018年12月4日(火) 10:00~12:30 開催場所: 教区センターホール(安里教会)

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(11月会議)の議事録に沿って新田が報告と確認。
- ・ベトナム人難民・移住・移動者の担当司祭について。ピーター・チェ神父が責任者となって宣教・司牧に当る。St.ロレンゾ・ルイス国際司牧センターを教区事務所から浦添のフィアット修道院の一階に移して、これまで主にフィリピン人信徒の司牧の為に活動してきたが、担当司祭を置いて、ベトナム人やスペイン語圏からの人々等、様々な移住・移動者にサービスが提供できるよう、プログラムを考えていくようにしたい。所長は引き続きロドニー神父が勤め、フィリピン人司牧を担当する。ピーター・チェ神父は協力司祭として、主にベトナム人への宣教・司牧に当る。
- ・押川司教からも昨今の日本における外国人労働者の人権問題に対する意見が述べられ、様々な取組みによって、教会が彼らの助け手となるよう頑張っていると激励された。
- ・浦添のエマオユースセンターについては、活用時期がサマーキャンプ前後と限られているため、担当のフランス神父と相談しながら、今後はSt.ロレンゾ・ルイス国際司牧センターと場所を共用しながら、施設の通年活用へ移行していくことが確認された。
- ・ウェイン司教より、11月12日~15日にかけて韓国で行われた、日韓司教交流会の報告があった。これは毎年交互に持ち回りで開催されているもので、今回は日本の司教団が韓国へ赴いて行われた。北朝鮮との軍事境界線の視察や、IT(AI)をテーマに話し合いが行われた。来年は日本で開催される。
- ・ナビーン神父より、諸般の事情により50周年を祝うことができなかったことからこの11月23日におこなわれた与那原教会創立60周年記念行事の報告があり、司式された押川司教や司祭、助祭たちへの感謝が述べられた。当日は先約によりウェイン司教は不在で参加できなかったことから、今後も教区内の取り組みを優先するため、早めに連絡調整して司教日程に組み込めるよう司教から要望がなされた。
- ・ヨアキム神父より11月25日に行われたコザ教会50周年の記念ミサと祝賀会の報告があり、1年前から準備を進める中で、学ぶところもたくさんあったこと等が報告された。
- ・津波古事務局長より、11月7日~8日にかけて行われた長崎教会管区司教・事務局長会議の報告があった。毎年各教区持ち回りで開催されており、今回は大分であった。長崎大司教からは、大浦天主堂のキリシタン関連遺産博物館の開館が報告され、有効に活用していたべくよう要請があった。また、2019年10月21日~23日にかけて、長崎教会管区司祭大会が鹿児島で開催予定なので、司祭たちはそのための日程を確保しておくよう要請があった。その他、福岡諸教区共立神学校の開校や、召命の発掘、潜伏キリシタン関連遺産の活用についても話し合いが行われた。また、未決定ではあるがフランススコ教皇の訪日への対応についても高見大司教から話があり、日本司教団の要望などについての意見交換もなされ、もし訪日が決まれば最重要課題となるため、様々な予定が変更される可能性について示唆された。
- ・フランス神父から、12月22日(土)に首里教会を会場に青少年クリスマス・ミサとパーティーが行われることが報告され、たくさんの子どもの参加を促すよう要請がなされた。その機会にワールド・ユース・デイ in パナマへ沖縄代表としてから派遣される、小川聡子(安里教会所属)さんの派遣式も加えたい意向が伝えられ、了承された。
- ・マーシーさんから「世界子ども助け合いの日」(2019年1月2日)についても説明があり、資料と募金のための封筒などが各小教区に配られた。
- ・藤澤神父より、先月宮古島で行われた司祭・助祭拡大会議開催へのお礼が述べられた。
- ・ブイ神父より、「司祭不在のときの主日の集会祭儀(試用版)」について良く読んで活用されるよう要請があった。しかし、現状では司祭が不在な状況は稀なのでまずは司祭がこれを研究してから指導できるように準備をすることから始めるよう意見が出た。
- ・事務局より、2019年三教区合同黙想会は、6月10日(月)~14日(金)まで大分教区で行われるので、司祭、助祭たちは日程を調整するよう要請があった。
- ・3月11日が大城神父の命日であるが、2019年は3月17日(日)に日移して、開南教会で午後2時から3回忌の追悼ミサが捧げる予定。
- ・中神父の7回忌追悼ミサは、2019年11月24日(日)午後安里教会で捧げられる予定。
- ・2月は教区の日関連行事のため、司祭、助祭拡大会議は休みとなる。
- ・石垣を手伝っていた岡神父は12月8日付けで福岡の修道院に移動することが報告された。

2. 審議事項

- ・各小教区の活動報告。今回は泡瀬教会と普天間教会。
泡瀬教会: ポスコ神父より、週ごと、月毎の活動報告があった。幼稚園があるので、行事の際の挨拶等を通じて、またクリスマスには500枚のカードを用意して宣教活動していること等が報告された。今年初めての試みとしてクリスマスフェスタを開催し、地域の人々にも呼びかけて教会へ訪問する機会を作っていること等が報告された。
普天間教会: アジット神父より、準備された資料をもとに、年間の活動報告、毎週の活動、月間の活動の取組みが報告された。信徒をグループ分けして、皆が参加して活動していることや、週1回パウロ・カフェを開いて、子どもたちへの給食サービスに取組んでいることも報告された。
- ・終身助祭やカテキスタの養成についての意見交換がなされた。多くの司祭からカテキスタの必要性が訴えられ、その養成コースの整備などの必要性を確認した。また、助祭もなくてはならない存在との共通理解が得られ、カテキスタの中から選出し、養成するよう意見が出された。そこで先ず手始めに長崎大司教区発行のカテキスタ養成講座などを参考にしながら、カテキスタ養成講座の準備を進めることが司教から提案され、新垣助祭を委員長とし、押川司教も顧問として手伝って頂きながら、今後の司祭会議に諮れるよう準備してほしい旨要望がなされ、了承された。
- ・教皇様の意向により2019年10月期を特別宣教月間として定められたことを受けて、ブイ神父を中心に様々な取組みを進めるよう、司教から要請があり、了承された。
- ・次回の審議事項の小教区報告は、名護と石垣教会が行う。
- ・2019年2月11日(月)の教区の日安里教会を会場に午後2時から従来通りに行う。今年は司教叙階式のためにお祝いできなかった対象者も含め、2年分のお祝いとする。遠慮する対象者もいるので主任司祭は配慮して、積極性を促すよう要請がなされた。
- ・引退司祭のために司教館にエレベーターを設置し、部屋も整えているが、移動は復活祭後になる。それに伴い、先月も報告した通りほぼすべての司祭たちが移動となるので、滞りなく一斉移動が可能となるよう準備を進めておくよう司教から要請がなされた。
- ・2019年の司教公式訪問の依頼やその他司教への依頼は、早目に事務局、マーシーさんまで提出して調整するよう要請があった。
- ・ウェイン司教より、教区の信徒評議会を設けたい旨報告があった。具体的な取り組みは今後協議していく。
- ・次回会議は、休暇等の兼ね合いもあり、1月4日(金)10:00から教区センターにて開催する。また、顧問会は年内12月19日(水)の10時から教区事務所で開催されることが報告された。
- ・13:00~15:00司祭・助祭のみを対象にハラスメントについての研修会が行われた。

2018年12月11日

記録: 新田 選

承認: ウェイン・フランス・パート司教

2018年度全国典礼担当者会議報告③

テーマ: 信徒による典礼奉仕の共通理解を求めて 教区典礼委員 新田 選

祭器室係(香部屋係)の解説に続いて、朗読者についての解説が2日目の午前中に行なわれました。

朗読者に求められる準備については、聖書に関する養成、典礼に関する養成を前提としていますが、技術的な準備も求められています。担当に際しての最小限の必要事項は、「聞き取れる声で、はっきりと、味わえるように読む朗読者の読み方が、何より、朗読によって神のこばを集会に正しく伝えることになる」(朗読聖書の緒言 14項)からです。

「朗読の手引き」(東京大司教区・下井草教会)から、朗読者の心得について引用しておきます。

「(主の降誕を告げ知らせた天使のように) 喜びをもって聖書の言葉を伝えましょう」

「前もって朗読箇所を目を通して、内容を把握しておきましょう」

「朗読は、大きい声で、最後までゆっくり読みましょう」

「マイク、段の調整は事前におきましょう」

「声を聖堂内に投網のように広げて飛ばし、魚を獲るような気持ちで話しましょう」

「聖書を読むのではなく、伝える気持ちで朗読しましょう」



朗読奉仕者として選任されるのは、現行の役割規定では、司祭職を目指す神学生です。信徒の朗読者は臨時に任命されるものですが、事実上通常の朗読者として役割を担っています。ですから、朗読聖書の緒言で謳われているように、「聖書に関する養成は、朗読者が朗読箇所を本来の文脈において把握することおよび、啓示の訪れの中心を信仰の光によって理解することができるようになることを目指さなくてはならない(No.55)」ものです。

その他、朗読者の動き方として、朗読台へ向かうときと去るとき祭壇への一礼、朗読後の一礼、朗読後の発声(改定が検討されている)などについても言及がありました。改訂の方向性が決まりましたら、教区内での勉強会を持ちたいと思いますが、今はまだ各小教区でなされているやり方を継続しておいて頂くようお願いいたします。(以下次号)

「声」 角笛

那覇教区女性の会 「研修会」

石川教会 伊波里奈

去る十一月十八日(日)に、「な

ぜ祈りが大切か」をテーマに、講師、田端孝之神父様をお迎えして、安里教会で研修会が行われました。

神父様はスクリーンをまじえ、遺伝子の細かな仕組みを説明しながら、Something great(神様)の存在を認めざるを得ないDNAの話をしてくださいました。

又、ある実験により、どんなに離れた場所からでも、祈りを捧げた相手に対して良い影響を与えることができることや、祈りはその人のために祈っていると、脳は自分が善い行いをしていてと判断し、「快」を感じる物質を脳内に分泌するのだそうです。

何を思い、どういう心で一日一日を過ごすか、とても大切なこと。「思いの質」が「生きる質」であり、「生きる量」となる。など、とても勉強になりました。

世界では今も、戦争やテロがつづいております。私達は毎日祈り、たとえ遠く離れていても、祈りは無駄ではなく、世界の人

達に伝わります。祈ることによって、世界は平和になるんだと改めて認識いたしました。途中、コーヒーやお茶を飲みながら、休憩をはさみ、次は神父様がギター演奏をしながら、「君は一人じゃない」、中島みゆきの「糸」、中孝介の「花」、そして最後に「花は咲く」をみんな

で歌いました。質疑応答では、さまざま教会の信者さんが意見を交わし、ご自分の思い、神父様に対する感謝をのべ、神父様も「ギフト」をもらいましたと仰ってくださいました。

研修会に参加することができ、神様のお恵みを受ける一日となりました。

教区 NEWS 教会

創立五十周年を祝う

感謝ミサ・祝賀会

コザ教会

十一月二十五日午後三時より

コザ教会は待ちに待った創立

五十周年記念ミサ、祝賀会を行いました。

ウエイン司教、押川司教、谷司教、そして十一名の神父の司式による記念ミサは荘厳そのものでした。

ミサの中の説教でウエイン司教はコザ教会の初代主任司祭エレミア神父のコザ教会への思い入れを語られました。

聖堂

の祭壇は床の間、日本庭園を彷彿させる和式にすること、屋根は十字架を象った形にすることなど

予算の関係もあり渋る設計士と何度も話し合い、エレミア神父の要望が叶ったようです。

また帰国の際はコザ教会建設のための寄付依頼で友人、知人の許を奔走されたこと等々。五十年前にさかのぼり、懐かしさと感謝の涙が滲むお話でした。

ミサの最後にはウエイン司教よりカプチン会の地区長デニス神父様に感謝状が贈られました。他の教会もそうですが用地の獲得、教会建設等、

KOZA Catholic Parish

50 Anniversary 1968 ~ 2018

50年の歩み写真展

コザ教会の歩みを写真で振り返ります。貴重な写真もきつと見つかると思います。

- ・歴代主任司祭
- ・エレミア神父特別コーナー
- ・50周年記念感謝ミサ及び祝賀パーティー etc.

●期間 2018.12/25~2019.1/3 ●於・教会玄関ロビー

カトリックコザ教会 ☎098-937-7064



那覇教区草創期におけるカプチン会の働きは甚大なもので感謝の念に堪えません。

ミサ後はエレミアホールにおいて祝賀会が催されました。ヨアキム神父と女性の会メンバーによるかぎやで風での幕開け、写真のスライドショー、押川司教の乾杯の音頭、ウエイン司教の祝辞、子ども会のエイサー、日舞、琉舞、フイリピンダンス、最後は参加者全員で聖家族音頭を踊り大いに盛り上がりました。当教会ファミリー会提供の焼き豚も美味しい料理にひととき五花を添えていました。

各教会から多くの方々がご参加下さり五十周年記念ミサ、祝

賀会を盛会裡に終えることが出来ましたことを心より感謝しつつ報告と致します。

「コザ聖家族教会」がその名にふさわしく、家族的な交わりの中で協力して地域に根ざした教会として発展していけるよう信徒一同決意を新たにしているところでです。多くの皆様のお祈りや物心両面のご援助ありがとうございました。

(松堂康子通信員)

パウロ祭り

普天間教会

前日の大雨にもめげず、ひたすらロザリオの祈りと多くの方々の祈りを頂き、十一月四日(日)、当教会で盛大にパウロ祭りが行われました。

ウエイン司教様、押川司教様、デニス地区長神父様はじめ、たくさんの方々の神父様方、助祭様方、シスター方、各教会から大勢の信徒の皆様方、ご家族、友人知人の皆様方おいで下さり、大変有り難い事でした。また、たくさんの方々から御寄贈恵みもいただき、心から感謝です。

パウロ祭りは、慈しみのイエス様の御像と、当教会の名に因んだ聖パウロの御像を建立することができた喜びを皆様と共に祝い、神を讃美する兄弟姉妹の

一致を目指して計画されました。ご参加下さった皆様に喜んでいただけるよう、料理や飲み物など万全を期してお迎えしよう

とアジット神父様はじめ会長副会長信徒一同心を一つにして準備を致しましたが、不行届きがあつた事をお詫び申し上げます。

ウエイン司教様には、心温まる厳粛な御ミサを司式していただき、「神に慈しみの中で互いに愛し合うこと」の大切さをお話し下さり、御像の祝福をしていただきました。感謝申し上げます。

上原令子さんのコンサートは、御聖堂の中で催され、歌声、演奏と共に、心打つ証を神様の御前でなさつた事も大変すばらしい事でした。四人のお仲間のキーボード、ヴァイオリン、サクソフォーンの演奏と相まって、令子さんの歌声は教会いっばいに美しく響き、聴く人々の心に深

く染み渡りました。お礼の挨拶をなさつていただきました押川司教様の「心の、体の中心に染み入る歌声と演奏に、最後まで席を立つ事ができなかった。」のお言葉に感動の心が伝わるかと思ひます。

最後に身内の事ながら、当教会の主任司祭アジット神父様に信徒一同尊敬と感謝を申し上げます。素晴らしいリーダーシップを発揮され、多くの業者の方々、信徒の心を動かし、昼夜を問わず誠心誠意神様への従順と信徒の一致の心を身をもって示してくださいました。その働きも全て、神様の力とロザリオの祈りの力だとおっしゃる神父様から多くの事を学びました。

お忙しい中をはせ参じ、共に喜びを分かち合つて下さった皆様の暖かい心に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。主を讃美、神に感謝!

(石原早苗)

司教様公式訪問

真栄原教会

十一月二十五日の「王であるキリストの祝日」は真栄原教会の記念日に当たり、ウエイン司教様の公式訪問がありました。

当日は、十時から主任司祭の有馬神父様との共同司式で記念



ミサが捧げられました。当日の福音書は、ピラトとイエス様の有名なやりとり「お前がユダヤ人の王なのか」「わたしの国はこの世には属していない」(ヨハネ十八・33b・37)でした。説教の中で司教様は、イエス様の真理の言葉を聞く私達は、この世に属しない天国と直結していることを解説してくださいました。

ミサ後は、ロドニー神父様も加わり、信徒ホールで一品料理持ち寄りによる祝賀会が行われました。祝賀会では、日曜学校の生徒達によるダンスや大人も加わった合唱、詩吟やピアノ独奏などの余興を交え、楽しいひとときを過ごすことができました。ウエイン司教様ありがとうございました。

ございました。

(千村次生通信員)

六十周年を迎えました

与那原教会

昨年、私たち与那原教会は聖ク
ララの保護のもと、創立六十周年
を迎えました。これを記念して、
十一月二十三日、押川司教様司式
による感謝ミサと本田哲郎神父様
による「記念特別講演会」を開催
いたしました。

ミサ、講演会ともに多くの方に
参加していただき、信徒を代表し
て心から感謝申し上げます。押川
司教様は、ミサの中で「与那原教
会は創立六十周年を迎えました、
もう六十年ではなく、また六十年
これからですよ」と私たち信徒を
励ましてくださいました。

ミサの終わりに、歴代の主任司
祭を代表して、ラサール神父様に
花束とお礼を差し上げ、長年の貢
献に対して感謝いたしました。昨
年は、ラサール神父様にとっても、
来日六十周年の記念の年でした。同
時に二重の記念日を迎え、教会は
大きな喜びに包まれました。

当教会は、修道院のシスターた
ちのために建設された聖堂を、レ
イ司教様のご意向で与那原教会と
して使うことになり、私たちは創
立当初からシスターたちと共に祈
り、神を賛美し、シスターたちの

本田哲郎神父様



姿を見ながら信仰の道を歩んでき
ました。そしてこのたび、シスター
たちといっしょに六十周年を祝う
ことになったのです。当時の教区
長レイ司教様にも心からの感謝を
捧げます。

ミサの後、本田哲郎神父様によ
る講演会が行われました。テーマ
は「開かれた教会に向かつて」。

本田神父様は、「聖書の中のこと
ば」について、「低くされたもの
の中にこそイエス様がおられる」と
はどういうことか話してください
ました。また、バチカン公会議の
テーマでもある「開かれた教会」が、
今こそ問われているのではないか
とも話してくださいました。

本田神父様は労働者とかかわ
りをたいせつにしたいと、大阪の
釜ヶ崎に住み、そこを拠点にさま
ざまな活動を行ってられます。

私たち与那原教会の兄弟姉妹は、
創立六十周年を記念するにあたり、
シスターたちと共に過去から現在
そして未来に向かつて絆を深め、
互いに手を取り合い、足並みをそ
ろえて一歩一歩前へ進んでまいり
ます。

私たちが教会と地域社会にさら
に貢献できるよう、みなさまお祈
りください。(信徒代表・篠原毅)

サントニーニョフェスティバルのご案内



2019年1月20日(日) (午前10時~午後3時)
ミサ:10時(午前) 司式:ウェイン・F・パート司教
サントニーニョの行列、パザー・アトラクション
※バネのミサ 1月12日(土)~1月19日(土) 午後7時

カトリック具志川教会(うるま市喜屋武58) ☎098-974-3643
主任司祭 ピーター・チャネル・チェ神父 信徒代表 高江洲 政子

訃報

安里教会

ヨハネ 新垣 貞夫 様
二〇一八年十二月三日 帰天
享年八十五歳

愛楽園教会

ベタニアのマリア 大城ヨシ子 様
二〇一八年十二月三日 帰天
享年九十四歳

~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



葬祭の
「やすらい企画」

24時間
受付

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL & FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

あらた たでお
代表者・新田 選